

事務連絡
令和3年1月26日

各都道府県教育委員会事務主管課 御中

文部科学省総合教育政策局国際教育課

自治体及び学校におけるオンラインによる国際交流の好事例の収集について（依頼）

平素より文部科学行政に対し御理解御協力賜り厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響により、実際の渡航を伴う国際交流が困難な状況が続いております。

このような中、各自治体や学校においてオンラインによる国際交流の事例が増えてきている状況を踏まえ、それらの好事例についてまとめ、文部科学省ホームページで広く紹介することを予定しております。

各都道府県教育委員会におかれましては、御多用中のところ大変恐れ入りますが、下記を御確認の上、事例の御提出をお願いいたします。

記

- ◆締切： 令和3年2月17日（水） 17時
※ 御提出の際には、お手数ですが、各都道府県教育委員会事務主管課が取りまとめていただきますようお願いいたします。
- ◆様式： 添付パワーポイント様式のとおり
- ◆提出件数： 各都道府県あたり、公立私立各1校以上の御提出をお願いいたします。
- ◆対象プログラム：
 - ・ 各自治体や学校において、実際の渡航を伴う海外研修の代わりにオンラインで実施する等、工夫を凝らした取り組みを行った事例。なお、当該海外研修が、文部科学省補助事業「国費高校生留学促進事業」の採択プログラムであったか否かは問わない。
 - ・ 新型コロナウイルス感染症をめぐる状況に関わらず、以前よりオンラインを活用した国際交流を行っていた事例。
- ◆公表時期： 文部科学省ホームページにおいて、本年3月までに公表予定。

お忙しい中大変恐縮ですが、御協力方、どうぞよろしくをお願いいたします。

【本件担当】

文部科学省総合教育政策局国際教育課
国際理解教育係 飯名

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

電話 03-6734-3487

E-mail : kouryu@mext.go.jp

他機関との連携による取り組み【長野県松本県ヶ丘高等学校】

学校主催の語学研修(カナダ・マレーシア・シンガポール)が中止された代替として、JICA駒ヶ根との協力の下、ネパール・カトマンズ市(松本市の姉妹都市)と、途上国の社会課題解決について、2020(令和2)年10月～12月の5日間、PBL(Project Based Learning)を実施。同校生徒9名と長野県内WWL連携校生徒17名の合計26名が、現地の人へのオンラインインタビューや、現地高校とのオンラインセッションを行い、ネパールについて理解を深めた後、学校にて松本市在住のネパール人留学生等との交流を行った。

【工夫した点】

- ・ WWL 連携校にも募集をかけ、希望する高校生に参加を募った。各学校からのオンライン参加と集合研修をミックスして実施した。
- ・ できるだけ現地の雰囲気を感じられるよう、JICAのネパール人講師によるネパール語講座や、レストランでネパール料理を味わうなどの文化体験プログラムも組み込んだ。

【今後の課題】

- ・ 交流の様子等を松本市の国際交流担当と共有し、今後の姉妹都市連携の在り方について高校生目線での提案を行う等、校内だけの取組に終わらせないように継続していく。



【経緯】

1989(平成元)年11月	松本市と、ネパールカトマンズ市とで姉妹都市締結。
2020(令和2)年3月	新型コロナウイルス感染症の影響により、学校主催の語学研修の中止が決定。
同年8月～9月	オンラインでの海外研修プログラムの実施を検討 JICAのOB等によるカトマンズとのオンライン研修、JICA駒ヶ根との施設使用・講師派遣について打合せ キックオフイベント(ネパール関係の講演会)の実施、参加生徒募集
同年10月～12月	生徒による調査活動、現地インタビュー、課題発見と解決策の発表。ネパール文化体験、留学生との交流

姉妹校提携による取組み【広島県立五日市高等学校】

姉妹校(インドネシア)訪問が中止になったため、生徒の提案により、ビデオ会議ツールを用いた、新型コロナウイルスに関する諸問題(経済・教育・医療・観光)についての両校での協働学習を実施。同校3学年の生徒14名が参加し、2020(令和2)年5月～7月にかけて定期的(週1回)に1時間程度実施。班別でのスライドを用いたプレゼンテーションや意見交換等を実施。

【プログラムの内容】

- ・全体テーマ：「新型コロナウイルス ～How has this pandemic changed our lives?～」
- ・前半： 班ごとに指定されたMeetルームに集合し、スライドを用いたミニプレゼンを主軸に意見交換。
- ・後半： 各グループで話し合った内容を全体共有し、次回までに何を調べてくるのか報告。生徒たちは、次のオンライン会議までの間に、自宅それぞれLINEを使ってアイデアのやりとりを主体的に英語で行った。
(4班の研究テーマ)
 - 1 班 経済 「自粛生活による消費活動の委縮」
 - 2 班 教育 「『新しい生活様式』の下で求められる教育のあり方」
 - 3 班 医療 「衛生面に関する両国のコロナ対策の違い」
 - 4 班 観光 「グローバルリズム～郷土料理をオンラインで味わう」
- ・フォローアップとして、全体で「振り返り活動」を行い、校内向け壁新聞「オンライン交流で学んだこと」を作成し校内に掲示した。

【工夫した点】

- ・オタクソース株式会社や宮島観光協会など地元企業や機関と連携を取り、助言を得た。

【今後の課題】

- ・第2期交流事業として、「オンライン文化祭」を企画しスタートさせている。内容を更に発展させるとともに、校内における教育活動として明確に位置付ける。

【経緯】

2019(令和元)年8月	インドネシアのチャル・セカンダリー・スクールと姉妹校提携を締結。 (本校2校目の姉妹校)
2020(令和2)年5月	12月のインドネシア初訪問が、新型コロナウイルスの影響により中止。3年生の生徒有志が、ビデオ会議ツールを活用したウェブ会議を提案。
同年5月～7月	ウェブ会議実施

学校連絡先 082-923-4181



海外の大学との連携による取組み 【熊本県教育委員会】

県主催の米国大学派遣プログラムが中止になったため、その代替として、県教育委員会に配置された留学支援員を活用して、オンラインによる語学研修・異文化体験研修(州立モンタナ大学による大学レベルの英語学習や、異文化を学ぶ研修)を実施。県内の高校生40名が参加し、2020(令和2)年8月に4日間の日程(1日あたり3時間程度)で実施。

【プログラムの内容】

- ・4日間のプログラム
 - Business & Technology : 教育やビジネスで活用できる通信技術について学ぶ。
 - English Language Instruction : 大学レベルの「話す」「聞く」「読む」「書く」技能を磨く。
 - Cultural Engagement : 州立モンタナ大学の学生や地域住民と電子メールやビデオチャットを通して交流やアンケート調査を行い、日本と異なる文化について学ぶ。
 - ・研修最終日には、学んだことを州立モンタナ大学の学生や地域住民とグループディスカッションする機会を設ける。
 - ・受講証明書の発行
- ※参加生徒の感想には「現地の学生と実際に交流する中でアメリカと日本の相違点を知ることができた」など好意的な感想多数。

【工夫した点】

- ・生徒と県教育委員会です事前に日を設定してZoom接続確認
- ・大学担当者との交渉は電子メールにより準備
- ・生徒20名に対し講師1名を依頼
- ・小グループで生徒が発言できる機会の確保
- ・校種のバランスを考えた参加生徒の選考

【今後の課題】

- ・自宅等でインターネット環境が整っていない生徒への更なる支援



2013(平成25)年6月	県教育委員会と米国モンタナ州立モンタナ大学の間で、Memorandum of Agreement に基づく派遣協定を締結。その後毎年、約20名の生徒を派遣し、約2週間の語学研修を実施。2019(令和元)年度までに延べ144名を派遣。
2020(令和2)年6月	文部科学省補助事業「グローバル人材育成の基盤形成事業(国際交流・留学環境整備事業)」に採択され、留学機運醸成のための留学支援員を県教育委員会に配置。語学研修に関して大学との交渉を担当し、県教委へ助言。
同年6月	新型コロナウイルス感染症の影響により、2020(令和2)年度のモンタナ派遣研修の中止が決定。その後、県教育委員会主催でオンライン開催を検討。定員を上回る希望者のため定員を40名に増加。
同年8月	オンラインによる語学研修・異文化体験研修を開始。※留学支援員がファシリテーターとなって運営に従事。

連絡先

096-333-2705